

令和6年度 事故防止委員会活動報告

事故防止委員長 山田 小百合

事故防止委員会は、各フロア及びセクシヨンの長が集まりヒヤリハットレポートや事故報告書の傾向と対策を報告、それに対して委員会として更に多方向からの検証および今後の予防策を講じる委員会となっている。会議内での話題は、自フロア・セクシオンに持ち帰り、各職員が自身を振り返られるよう促す。

【令和6年度目標】

・マニュアルに忠実に動き、薬の事故「0」を目指す。

【活動内容】

① 委員会内で話し合った検討内容、話題に関して、各フロア及びセクシヨンの会議で報告。現場で周知・徹底し、翌月の会議内で評価を行う。

② 園内研修会は、『薬』と『コミュニケーション』をテーマに開催。

服薬マニュアルに沿った対応が行えているか、危険予測が行なえているか等、上半期で振り返る。更に、各フロアでも机上ではなく定期的に実際に動いてマニュアルの確認を行う。コミュニケーションは伝えるだけでなく、人の話を聞くことの重要性も伝える。(参加できない方はレポート提出)

◆参加者を増やす為にはどうするか意見を出し合いながら進める。

③ 月担当1名を決め、事故防止ニュースの発行を継続する。

【活動目標の達成とその成果】

① 委員会内で話し合った内容は各フロア会議内で伝達していたが、会議そのものの開催が困難となっており、書面で提示した内容をスタッフ全員が確認できたかどうかの評価、翌月の評価までは行えていなかった。また、人の入れ替わりのタイミングでリセットされ、同じようなヒヤリが出てしまう状況があった。

② 薬・研修会に参加出来ない中、服薬のマニュアル確認(読み合わせ)を行っていたフロアもあったが、定期的には行う事が出来なかった。事故報告としては、誤薬事故は昨年度末の一件後、今年度は、経管栄養者の誤薬事故一件のみで、飲ませ忘れ、下剤の重複投与事故はそれぞれ多かった。コミュニケーション・チーム間での声の掛け合い、申し送り時の確認などが原因でのヒヤリや事故は今年度も多かった。

③ 事故防止ニュースは継続したい。月担当の意識付けと作成したニュースの宣伝が課題。

【問題点及び課題】

- ・ 委員会内の検討内容の周知方法と各フロアでの活かし方。
- ・ マニュアルの確認
- ・ 集合型研修は難しい為、有効な周知方法を検討。
- ・ 事故防止ニュースの有効活用。

【次年度に向けて】

- ・ 毎月、会議内で検討した内容を『事故防止ニュース』として取り上げ、各フロア内で周知。
- ・ マニュアル確認を会議のスケジュールに盛り込み実施。
- ・ 研修会の開催方法を検討。

	転倒	ずり落ち	皮下出血	剥離	その他の傷	誤嚥	異食	薬	外出	医療関係	情報管理	その他	合計
4月	5	5	11	4	1	0	4	2	0	0	3	2	37
5月	12	8	12	6	1	1	1	3	1	2	2	5	54
6月	11	4	16	6	1	0	0	5	1	0	2	1	47
7月	6	3	8	9	1	1	2	7	3	1	1	5	47
8月	6	1	14	6	1	0	2	6	2	2	3	4	47
9月	8	0	12	13	0	2	0	3	1	0	0	2	41
10月	8	0	10	4	0	0	3	2	2	0	5	7	41
11月	9	3	12	3	3	0	0	4	2	1	5	6	48
12月	13	1	6	6	1	1	1	5	0	1	1	3	39
1月	5	2	7	5	2	0	1	3	0	2	0	4	31
2月	19	3	9	2	0	1	1	4	0	0	0	3	42
3月	8	2	8	3	4	2	2	1	1	0	1	4	36
	110	32	125	67	15	8	17	45	13	9	23	46	510

### 八色園事故件数

	転倒	転落	誤嚥・窒息	異食	誤薬・手薬もれ	医療処置	不明	その他
4月					1			
5月		1			1			2
6月	1				1			1
7月			1		1			
8月					1			
9月					1		1	1
10月	1				1			
11月		1			1			
12月	1				1			
1月		1			2	1		
2月			1		1	1	1	
3月					1			
	3	3	2	0	13	2	2	4

